

特 殊 報

各関係機関の長 殿

福岡県病害虫防除所長

平成16年度病害虫発生予察特殊報第1号について

このことについて、以下のとおり送付します。

平成16年度病害虫発生予察特殊報第1号

- 1 対象作物 トルコギキョウ
- 2 病害虫名 トルコギキョウ葉巻病（仮称）  
病原ウイルス：TYLCV（Tomato yellow leaf curl virus）
- 3 発生地域 高田町 発生面積 1 a
- 4 特殊報の内容
  - （1）発生確認の経緯  
平成16年11月中旬に、三池郡高田町の施設栽培のトルコギキョウ（品種：キングオブスノー）に株の萎縮、葉巻症状が確認された。  
病害虫防除所においてPCR法で検定したところ、Tomato yellow leaf curl virus（TYLCV）が確認され、トルコギキョウ葉巻病（仮称）であることが判明した。なお、本県ではTYLCVによるトマト黄化葉巻病は平成11年に発生が確認されている。
  - （2）病徴  
発病部位より上は接間が縮み、萎縮する（写真）。葉脈が隆起、葉表を内側にして巻く（写真）。これらの症状により商品価値は著しく低下する。
  - （3）発生生態・伝染方法等  
本ウイルスはシルバーリーフコナジラミによって媒介される。なお、管理作業による汁液伝染、種子伝染、土壌伝染およびその他の害虫による媒介はない。
- 5 防除対策
  - （1）本病の媒介虫であるシルバーリーフコナジラミの防除を徹底する。
  - （2）発病株は見つけ次第抜き取り、埋没する等により適切に処分する。
  - （3）ほ場周辺の雑草はシルバーリーフコナジラミの発生やTYLCVの伝染源になるので、除草を徹底する。

- (4) 施設栽培では防虫ネット（1.0mm目合い以下）によりシルバーリーフコナジラミの侵入を防ぐ。
- (5) 施設栽培終了時には蒸し込み等を行い、シルバーリーフコナジラミを死滅させ、外部への分散を防ぐ。

## 6 参考文献

九州新技術地域実用化研究成果N0 . 47

『トマト黄化葉巻病の病原ウイルス及びシルバーリーフコナジラミの生態解明に基づく環境保全型防除技術の確立（長崎県総合農林試験場・福岡県農業総合試験場・熊本県農業研究センター）』



写真 : 株の萎縮



写真 : 葉脈の隆起、葉巻